

私立大学と国立大学の経営比較と会計情報のパラドックス

専修大学 小藤 康夫

私立大学は学校法人会計基準に従い、国立大学は国立大学法人会計基準に基づいているため、両者の会計情報を単純に比較するのは難しい。だが、受験生をはじめとする利害関係者にとって大学間の財務情報は関心の高い問題であり、少子化が一層進み、熾烈な大学間競争が進めば、両者の比較はこれからますます関心が高まっていくものと思われる。

報告の第一の目的は異なった会計基準の私立大学と国立大学から同じ内容の勘定科目を取り出し、共通の経営指標を作成しながら両者の経営内容を比較することにある。私立大学の場合には消費収支差額という難解な勘定科目があるために、国立大学の期間損益と単純に比較するわけにはいかない。そのため、両者を比較するには工夫が必要とされる。それはフロー面だけでなく、ストック面の貸借対照表にも影響することになる。ここではフローとストックの両面から成長性、収益性、安全性に関する共通の経営指標を用いながら、私立大学と国立大学を比較したい。

ところで、利害関係者に向けて公表される会計情報が本来の役割を果たしているかどうかを確認することも必要である。例えば黒字決算の大学であれば、効率的な経営を会計的に証明していることになる。そうであるならば、受験生などの利害関係者にも高く評価されるはずである。また、自己資本比率といった安全性の経営指標が高い大学は余裕のある経営を展開しているので、収益性も高いことが予想される。こうした関係が成立してこそ、会計情報が活かされているといえる。

報告の第二の目的は決算の財務データから作成された経営指標を用いながら、会計情報が正確に実態を伝えているかどうかを確認することにある。実際に私立大学と国立大学に分けて検証したところ、私立大学はほぼ予想通りの結果が得られた。つまり、収益性の高い大学ほど成長性も高く、安全性が高い大学ほど収益性も高い傾向が確認された。だが、私立大学の会計は特殊で、大学外の人達が理解するのは極めて難しい。それにもかかわらず、予想通りの結果が得られているのは、皮肉にも大学外の人々が私立大学の特殊な会計をそのまま活用していない証拠でもある。

一方、国立大学の経営指標間の関係を見ると、収益性と成長性の関係も、また安全性と収益性の関係も、どちらも有意な関係が見出されていない。しかし、国立大学の会計は一般企業のそれとほとんど同じであり、大学外の人達でもすぐに理解できる会計である。だが、わかりやすい会計情報を提供しているにもかかわらず、実際はそれが実態にあまり反映されていない。こうした私立大学と国立大学に見られる「会計情報のパラドックス」を指摘するのが、本報告の第二の目的である。最後に、その理由も考えていくことにしたい。